

編集後記



これは夢か現実か、と分からなくなるほどの大発見を現実の世の中でしたいものですが、なかなかそうは問屋が卸しません。逆に夢の中で、これは夢か現実かと迷ったことならあります。大発見とは関係ありませんが、非常に雄大な景色のなかに一人であり、全てがあまりに美しくはっきりしていました。それが夢か現実かを確認しようと、近くの木を見ますと、力に満ちた枝が複雑に重なり合い、その先には緑に輝く葉っぱの群です。一つの葉に注目すると、陽光を照り返しながら微妙に変化する緑と、葉脈のフラクタル構造がはっきり見えます。隣の葉さらに隣の葉と目を移しても、各々が少しずつ違いながら見事な細部にいたる構造が見えます。別の木、草原の草と目を移しても、矢張りその細部までもがはっきりと見えます。しばらくそれをやった後考えたのは、これだけの情報量を（目を移す毎にその細部までがはっきり見えるので）自分の脳が記憶していることは全く不可能である。よってこれは夢でなくて現実の世界である、と確信を持って結論した直後に、ぱっちり目覚めました。 (A. I.)